

～地域懇談会グループワーク意見一覧～

Aグループ

<p>地域福祉の担い手づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の体験をする機会を作る！ ・若い人がイキイキとしているのを見るのは嬉しい。(寸劇の感想) ・わからない事を年長者に聞く。役割を持って頂く。 ・地域住民の参加・協力。 ・障がいの子どもがいるが、町内会に災害時にゆだねることができるのか。 ・課題「少子高齢化」→「子どもを増やす」→「結婚はいいものだ」と伝えたい ・町内会の役員を経験する。
<p>必要なサービスを利用できるしくみづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口の対応が不足。連携など。 ・福祉へのPRを進める！ ・高齢社宅を訪問をし話しを聞いて各関係機関へつなぐ。(困りごと等) ・子育て政策。(妊産婦への支援) ・障がいの別にとらわれず、また高齢という意味では全ての方が歳をとりますので、横のつながり情報を密にしていければと思います。 ・生活の場として地域で暮らす。孤立しない事が一番大事ですが、支援者とどう関わられるかで大きく違ってきます。 ・高齢者向け健康増進の事業を実施しているがフォローアップ不足。 ・情報発信(公助での)において専門用語が多い。発信の仕方を受け取り方が違う。
<p>パートナーシップ(協働)のネットワークづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区ごとのネットワークづくり。 ・子育ての失敗談を笑顔で語れるネットワークづくり。 ・学校=文化の中心地。 ・学校教育/社会教育。 ・教員と生徒(家庭)とのつながり。 ・博物館等の役割。(社会教育機関) ・学校=地域の中心地。 ・地域における学校の機能。(子どもが使えないか) ・閉じこもり世帯の把握。 ・障がいの方の支援が主な活動ですが、特に近年家族家庭を見守る事が必要なケースが多いので…。 ・認知症になっても地域で暮らせるような助け合い。
<p>誰もが安全安心に暮らせるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護の課題。 ・地域の安心安全と個人情報取扱いの難しさ。(テーマ) ・災害に強い地域町内会活動。 ・振り込め詐欺ゼロへの取り組み。 ・自分の仕事や家族の話を近所の方に日常からしておく。 ・高齢化。遠くの親戚より近くの他人を大切に。 ・要支援者の把握。町内会と民協の関わり方。 ・独居で生活しているお年寄り閉じこもり外出していける場をつくる。 ・高齢独居者の見守り活動となり近所でできれば…。 ・ふくしのまちづくりを目標にしているが漢字でも良い？ ・再教育と再就職。(再教育=再就職)

Bグループ

<p>地域福祉の担い手づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みのラジオ体操に高校生を声がけをして、行事など参加して頂いている。(学生に声がけを進める) ・災害の要支援者を支える人の少なさに地域による差があり難航している。 ・町内会役員の若返り。 ・人はいくつになっても役に立ちたいという思い。 ・若い世代の将来についての不安。(雇用・保障など) ・福祉の世話にはならない。の思いの是正。 ・“老人福祉施設で働きたい”という若い方が減っている現実。PRを！(設備が完成してもスタッフが集まらず、老人を受け入れできない。) ・20年先を考えて、小学校の授業で福祉の意識作りを行う。 ・元気な高齢者、技術や知恵を持っている高齢者はたくさんいると思うので、その方たちが若い世代と交流をもって色々と教えてあげるといいと思う。そういう場を町内会でもっと持つべきではないでしょうか。(若い人はスマホ・PCに頼りがち) ・中・高校生でボランティア活動をしている生徒が進学・就職で苫小牧市を出てしまう。若いボランティアの流出。 ・若い人も高齢者の方も皆さん結局は孤独になっていると思う。それは数十年前から国が推し進めてきた結果だと思います。人はやはり人とつながっているのが大切だと思う。これからの日本を生きていくには老若男女の垣根を取り外さないといけないと思う。
<p>できるだけしくみづくり 必要なサービスを利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた財源をどれだけ「ふくし」に使えるのか？ ・個人情報保護法による近隣住民の情報不足。 ・緊急時(災害等)に迅速な安否確認ができるか。 ・福祉・介護のことを口に出そう。言葉で伝えよう。
<p>パートナートワークづくり (協働)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に汗をかく。 ・21年度よりふれあいサロン(あいあいクラブ)として年4回交流会・食事会を行っております。また、グループホームの方々との交流会も年1回ですが町内会と共に行っています。 ・横のつながり。隣の町内会・商店会。 ・大成町の取り組み。映像の紹介。(情報の共有) ・地域福祉活動に参加しやすくする工夫が必要では？(お互いが負担にならないように！！) ・町内会行事の参加。文書(ハガキ)より訪問。(手渡し)
<p>誰もが安全安心に暮らせるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上高齢者町内マップ作成は出来上がりましたが、1人の高齢者の見守りが2～3人以上の方々に連絡網を作成したいと思っているのですがなかなか前進できません。担い手確保が困難。 ・平成21年度に救急搬送時に救急隊の方から毛布等の必要物品を話されましたが、他人の家のためわからなかった。そのため、65歳以上独居の方々には安心箱(準備するもの)を書いてまた実際に箱の中身を見てもらいました。他、緊急連絡票も作成しました。 ・苫小牧は自然がたくさんありますが、地形的にリスクも多い。樽前山を抱え海が近い。東西に長いなど、自然災害が起きた時、どう助け合えるかが苫小牧の課題。 ・地域との関係の希薄。町内会への加入。 ・災害時の対応。共助。 ・車イスで食事できる店が少ない。 ・精神障がい者への理解が難しい。 ・災害の要支援者を支える人の少なさに地域による差があり難航している。

Cグループ

<p>地域福祉の担い手づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会社や事業所も地域に参加する。 ・町内会・民生委員若手不足。仕事以外でボランティアとして地域に参加すること必要。 ・働き手でも参加できる地域活動のきっかけづくり。 ・地域福祉は無理のない範囲で。 ・町内会に若者も参加できる工夫を。声かけが大事。行く道来る道等を説明。 ・訪問活動をし、町内活動の内容を話し誘い合うこと。楽しい話を連発する。 ・高校生、中学生にボランティアの何がしをお話しして町内会参加を促す。
<p>必要なサービスを利用できるしくみづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の制度に頼るしくみ→地域で考えることという認識。 ・雪かきボランティア高校生を頼む。まずは学校にお願いに行く。早く起きて自分の町内のお年寄りの家に行ってボランティア。
<p>ネットワーシップ（協働）の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者間でも一部の人だけではなくみんなが参加できる雰囲気作り。 ・活動に出てこない人をどうやって巻き込んでいくか。 ・地域サロンの活用。 ・町内会と学校とのつながり。町内会の線引きは？ ・町内会のシステム以前とは変えていく必要。
<p>誰もが安全安心に暮らせるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の問題の壁→これらを越えて共助。向こう三軒両隣見守り。 ・福祉・災害等の縦割りではなく包括的な支え。 ・子育てと経済との関連性の感覚の違いが世代間である。 ・個人情報はなくし隣近所誰もが共助できるよう活動をする。 ・若い世代が活動できる街づくり。 ・年間70万人が出入りする苫小牧港。観光できるところがない。

D グループ

<p>地域福祉の担い手づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■社会福祉協議会の充実 ■心の教育 <ul style="list-style-type: none"> ・お互い様の心。 ・地域の一員であることの自覚。 ・何事も私には関係のないとの意識は持たないで協力して生きよう。 ・自分のこと以外にも関心を持てる。 ■町内会 <ul style="list-style-type: none"> ・町内会を活発にする。 ・町内会への参加。特にアパートの単身者等に対しては入居前に大家さんからの説明があれば少し違うのかと思う。 ・町内会役員への成り手の発掘をしている。今年4人になってもらった。 ■学校教育 <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場での人づくり。 ・小学生 or 中学生の時代から地域社会の問題を投げかける。(認知症サポーター講座) ・学校と子ども会の連携。 ・スポーツ少年団の活用。 ■ボランティア <ul style="list-style-type: none"> ・お元気な高齢者の出番がもっとあっても良い。(ボランティア、仕事) ・地域の人たちとの関係は“やさしさ”“思いやり”の心で声かけし、その積み重ねが“高齢者の見守り!”“災害時の時の援助”につながる。
<p>必要なサービスを利用できるしくみづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■制度以外のしくみ <ul style="list-style-type: none"> ・人に合わせた制度づくり。在宅だから。 ・介護認定を受けていない高齢者を1日2日預かってくれる施設。 ・介護者の心の支援。 ・どこでもいつでも手話通訳の派遣ができるようにして欲しい。 ・出前診療。 ・地域とつながりへのきっかけ。
<p>パートナートワークづくり(協働)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■制度・システム <ul style="list-style-type: none"> ・最後には福祉につながっているとのこと。市職員の意識の向上がさらに必要と思われる。(上林さん) ・役割の明確化。(行政・民間事業所・地域) ・制度・システムを動かすための組織化。(個人の力に頼らない) ・市の相談窓口、地域包括支援センター等の“人材の育成”! ・気軽に相談できる関係機関の仕組みづくりが大事!
<p>誰もが安全安心に暮らせるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■就労 <ul style="list-style-type: none"> ・若者に対し、安定した職業を!(会社自体考えてほしい!) ・障がい者が働ける環境。 ・ろうあ者の雇用促進。 ■居場所づくり <ul style="list-style-type: none"> ・人と出会える場をより多く。 ・一人一人が活躍できる場を。(役割を) ・自分の居場所。 ・ふれあいサロンを増やす。 ・誰でも気軽に集まれる場所が大切。 ■バリアフリー <ul style="list-style-type: none"> ・市役所、活動センター、市立病院、苫小牧駅など、文字による情報保障。(例: 駅ホーム「事故のため遅れます」など電光掲示板設置) ・買い物難民への支援。(認知症も含め) ※ふれあい収集の逆。 ・ろうあ者専門の老人福祉施設を作って欲しい。

Eグループ

<p>地域福祉の担い手づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブに入会してもらう。 ・民生委員の年齢制限。 ・エネルギーのある団塊の世代を確保する仕組み。 ・学校と地域との連携から子ども達との関わり。保護者も含めて。
<p>必要なサービスを利用できるしくみづくり</p>	<p>■みんなが気軽に集える場所か相談できる場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親に地域で相談できる人が不在で子育ての不安がある。 ・子育てが若い夫婦の負担になり、共働きが難しい。 ・育児支援。(子育てへの不安) ・ワンストップで相談できる場所。 ・年齢を問わず日中集えるサロンがほしい。 ・町内会活動がよく見えない。 ・一つの世帯に要介護者の親と障がいの子どもがいる世帯への支援が薄い。
<p>パートナーシップ(協働)のネットワークづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な圏域を単位としていない。(班・自治会・町内会・学校区・包括区・苫小牧市) ・共同作業を必要とするイベント等に参加する。 ・独居(世帯)高齢者サロン等に参加しない人をどうするか。 ・高齢者の活用と若者社会との連携。高齢者が若者の活動を支援する機会を作る。 ・独居高齢者の見守り支援。
<p>誰もが安全安心に暮らせるまちづくり</p>	<p>■地域の絆が命を救う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くにどのような人が住んでいるのか顔を合わせる機会を多く作る。 ・災害時要介護者が(救助)どこにいるか把握できていない。 ・災害時における高齢者・障がい者・子どもに対する支援。 ・白馬村の体制助け合いを見習いたい。作りたい。 ・生活道路の雪かき。 <p>■マップづくり</p> <p>■個別の状況に応じた対応ができる体制</p>
<p>※核の存在が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぐコーディネーターが必要。 ・地区社会福祉協議会があるといい。 	